

令和2年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		夢に向かって堂々と歩む子の育成 ～人とつながり 笑顔あふれる 心ぼかぼかな けやきっ子～		
推進主体		管理職と主幹教諭、学年・教務主任による学校教育改革推進委員会を設置し、以下の改善プランを策定		
学力に関する前年度の課題・経年の課題				
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価	
	(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
4月	○豊かな心の育成を図る	○学校評価アンケート(職員・保護者)の「児童の実態」の項目や子どもアンケートの「あいさつを自分からしようとしている・友だちと仲良くしようとしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	・「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う ・けやき台中生徒会作成いじめ防止啓発カレンダーを一校内に掲示する ・学期はじめに「あいさつ運動」を実施し、めざす児童像の「人とつながる子」をめざす ・学校外の教育力(ゲストティチャー)を活用し、多様な考え方・生き方・表現等にふれさせる場を設定する ・道徳教科書「あかつき」の他「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」等を活用して、道徳・人権教育の充実を図る ・人権参観(ハートフル参観)を実施する ・人権標語(ハートフル標語)を考える機会を設定する ・校内研修(特別活動)を活かして、学級会・児童会を充実させる	2～3月
	○本に親しむ子の育成を図る	○学校評価アンケート(職員)の「児童は、本に親しみ、自ら進んで読書し、読書を楽しんでいる」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	・毎月23日を「家族読書の日」とし、学校だよりや図書館だよりで家族読書の啓発を行う ・学校司書と連携し、学校図書館と学年文庫の運営を工夫する ・学校司書と図書ボランティア(かたつむり)による読み聞かせを継続する ・読書週間を設定する ・ブックフレンド(図書)委員会の活動を支援する	評価
学力の状況	◆基礎・基本の漢字の定着が必要。本年度は、「調査の対象」友達に限らず「関心をもってもらいたい」の3問が出題された。特に、「限らず」は90、8%の正答率で、全国平均を21%上回っていた。しかし、全国平均は、上回っているものの、「対象」45、4%「関心」37、7%の正解率は高める必要がある。◆最後の問題の無回答率が高い。記述式の問題は、無回答率が「1」も「2」も3%なのに、最後の記述式は13%になっている。これは、時間が足りなくて書けなかったと考えられる。◆課題に対する取り組みの具体として、①朝学習等、基礎・基本の充実を図る時間を設定する。また、国語辞典や漢字辞典を日常的に使うようにする。②必要に応じて適切な本を選び、豊かな読書活動を行うことで、自分の考えを広めたり、深めたりできるようにしていく。本で読んで考えたことを伝え合う学習を取り入れていく。③本や文章等から必要な語句や文を引用することができるようにする。	○子どもアンケートの「学校の勉強がわかる」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	・朝の学習タイムを充実させる(算数・国語) ・各学年児童の実態を考慮した、学力向上に向けての取り組みを工夫する。 ・放課後学習日や夏期休業期間等に学力保障(個別指導)を行う ・「がんばりタイム」を継続実施する	
	◆算と計算領域で課題が見られた設問には、「計算式の意味を読み取る力」「言葉の式と数式をつなぐ力」が必要である。◆量と測定領域は、県・全国平均より上回っているが、6割の正答率であり、定着に課題がある。◆図形領域で課題が見られた設問には、図形の移動を実際に操作するだけでなく、操作しないで回答できる練習が必要である。◆数量関係領域で課題が見られた設問では、割合を解く時に、「もとの量」の1をさらに意識させることが大切である。◆問題形式で記述式については、立式の理由を複数のキーワードをつないで答えることに課題がある。◆課題に対する取り組みの具体として、問題解決にあたって、情報の中から「条件に合うもの」「キーワードとなる言葉」を選択していく学習や、ノート指導やホワイトボードを使って書いて説明する学習を充実させていく。◆複数の情報を関連付けて、論理的に考察し、判断の理由を数学的に表現する思考を日常の授業で取り組んでいくようにする。また、規則性を見出し、条件の合う事柄について、授業の交流で行う必要がある。算数の授業だけでなく他教科(理科・社会)でグラフの意味を考えさせるようにする。◆正答率が後半になるほど低くなるのは、問題を解く速さに課題があると考える。時間を区切って練習するようにする。	○基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高める	○子どもアンケートの「学校の勉強がわかる」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	○研究テーマ「学びに向かう力を育てる」に沿った授業づくりを行い、「思考力の育成」をめざす ・授業研究を行い、全職員で授業力向上に努める ・11月に算数科研究発表会を実施する ・新学習システム(5・6年)と担任が連携し、児童理解と指導を行う ・全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、授業改善を行う
◆算数科においては、基本の計算力が身につけている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。 ◆文章題から読み取ったことを適切な言葉で表現することや要約することが難しい児童がいる。 ◆国語のテスト以外では、漢字を活用できていない児童がいる。 ◆基本的な計算に時間のかかる児童や計算のケアレスミスのある児童が見られる。	○思考力の育成を図る	○学校評価アンケート(職員)の学校運営「研究」の項目で研究の成果を問い、9割以上の肯定評価をめざす	・「めざす児童像」を学校だよりや学級集会などで提示し、家庭での協力を求める ・校内に「学校教育目標(けやきのエースをめざせ)」や「めざす児童像(人とつながり笑顔あふれる心ぼかぼかなけやきっ子)」の具体を示す含み言葉「さわやかなあいさつ」「もくもくそうじ」「ふわふわことば」「響き合う歌声」を掲示し、全校生が意識できるようにする ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する	
◆文章を書く(ふりがえりの記述を含む)ことに時間のかかる児童がいる。 ◆発表時に必要な声の出し方・姿勢が身に付いていない児童がいる。 ◆入学時にひらがなの読める子・読めない子、数の概念が入っている子・入っていない子の差が大きい。 ◆最後まで話の聞けない児童がいる。 ◆線分図や関係図等が書けるが答えと図が一致しない児童がいる。 ◆問題の解き方は、わかっているが計算でつまづく児童がいる。 ◆家庭学習の定着が難しい児童がいる。 ◆学習に必要な持ち物が揃わない児童がいる。	○すこやかな体づくりをめざす	○子どもアンケートの「休み時間や体育の時間に進んで運動したり、体を動かそうとしたりしている」の項目で運動・遊びができていのかを確認する	・いろいろな運動遊びができるよう環境整備を行う ・スポーツ(体育)委員会の活動を支援する ・栄養教諭と連携し、食育を計画的に行う	
◆算数科においては、基本の計算力が身につけている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。 ◆文章題から読み取ったことを適切な言葉で表現することや要約することが難しい児童がいる。 ◆国語のテスト以外では、漢字を活用できていない児童がいる。 ◆基本的な計算に時間のかかる児童や計算のケアレスミスのある児童が見られる。	○生活習慣の確立をめざす	○学校評価アンケート(職員)の「生活」の項目や子どもアンケートの「掃除に一生懸命取り組んでいる」の項目で掃除ができていのかを確認する	・「めざす児童像」を学校だよりや学級集会などで提示し、家庭での協力を求める ・校内に「学校教育目標(けやきのエースをめざせ)」や「めざす児童像(人とつながり笑顔あふれる心ぼかぼかなけやきっ子)」の具体を示す含み言葉「さわやかなあいさつ」「もくもくそうじ」「ふわふわことば」「響き合う歌声」を掲示し、全校生が意識できるようにする ・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする ・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する	
◆地域社会への関心が少し低い。「今住んでいる地域の行事に参加している」の質問に対して、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせた値が、全国平均より8、8ポイント・兵庫県平均6、0ポイント低い。◆地域行事については、①「学校だより」や「学年だより」で紹介する。②事前に各学級担任が児童に声をかける。③教職員も参加・演奏発表する。④児童の発表の場を設定する。等の工夫を行い児童の参加を促しているが、今後もこれらの取り組みを継続していく。	○保・幼・小・中・高の連携を図る	○学校評価アンケート(職員)の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	・ウッディ・カルチャータウン 青少年協連絡協議会を定期開催し、児童・生徒理解を深める ・学校・園だよりの交流を行う ・児童の様子について「文書」「口頭」「園所・学校体制」による引き継ぎを行う ・年間を通して継続的な保・幼・小・中・高交流を計画的に行う ・けやき台中生徒の「トライやる」を継続する ・三田西陵高生徒の「こども未来類型小学校実習」を継続する ・けやき台幼稚園(年長)の出前授業(音楽科)を継続する	
◆「あいさつ・そうじ・持ち物への記名」「履き物をそろえる」「廊下の右側を静かに歩く」「下駄箱の使い方」を重点的に継続指導する。	○校内研究の状況	○年間を通して、算数科授業研究・人権教育・特別支援教育・生徒指導・食物アレルギー対応などの研修を計画的に実施している。	○学校地域運営協議会を年間を通して計画的に開催する ・学校だよりを地域に回覧できるように配布する ・年1回児童・保護者アンケートを実施する。その結果を考察して、家庭に知らせ、成果と課題を共有する ・学校だよりやホームページ等で学校の様子を発信する ・学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う	
○「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」をテーマに算数科の研究に取り組んでいる。 ◆よりよい授業づくりのための事前・事後研修を工夫する。	○家庭・地域との連携を図る	○学校評価アンケート(職員)「保護者・地域・学校支援ボランティア等と連携して、協働の開かれた学校づくりに努めている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす	○ゲストティーチャーや学校支援ボランティアの協力を得て、学習の成果をあげている。今後も、より効果的な学習活動を工夫し、更なる人材の確保に努めたい ○令和元年度より、地域コーディネーターが決定し、三田型コミュニティスクールとなっている。	
○年間を通して、算数科授業研究・人権教育・特別支援教育・生徒指導・食物アレルギー対応などの研修を計画的に実施している。	○小・中における教科連携等の状況	○年間を通して継続的な保・幼・小・中・高の交流を計画的に実施している。 ○けやき台中学校区青少年健全育成連携連絡会を定期開催し、児童・生徒の情報交換や授業参観等を行っている。		